

防災気象情報の伝え方改善に係る当面の取組について

1. 気象庁(气象台)のもつ危機感を効果的に伝えていくための取組

市町村や住民に、緊急時に气象台のもつ危機感をより効果的に伝え、防災気象情報をより有効に活用していただけるよう、以下の取組を推進。

- ・ 地域専任チーム「あなたの町の予報官」の順次配置による自治体等へのきめ細かい気象解説等の推進【実施中】
- ・ 自治体職員等が防災対応を実践的に学習できる訓練プログラムを用いた「気象防災ワークショップ」の一層の推進【実施中】
- ・ 「気象防災アドバイザー」等の気象防災の専門家リストを自治体等へ共有し、普及啓発活動など自治体等の取組の支援を推進【準備でき次第実施】
- ・ 報道機関や気象キャスターとも連携し、防災気象情報等の平時からの理解促進の取組の推進【随時】
- ・ 防災知識の普及・啓発や緊急時の情報発信への SNS の活用【7月頃を目途に開始】

2. 防災気象情報をより一層活用しやすくするための取組

防災気象情報をより一層活用しやすくするため、防災気象情報そのものや、その利用環境の改善等に向け、以下の取組を実施。

- ・ 土砂災害の「危険度分布」を 5km から 1km メッシュに高解像度化【6月下旬から実施】
- ・ 「危険度分布」等が示す危険度の高まりが確実に伝わるよう、民間事業者と連携して希望者向けにプッシュ型で通知するサービスの開始【7月以降、準備が整った事業者から順次開始】
- ・ 最新の災害データを用いた大雨警報・注意報の発表基準の見直し【5/29 に実施】

3. 警戒レベルの運用に係る当面の対応

「避難勧告等に関するガイドライン」の改定等を踏まえ、政府全体として今出水期から新たに運用を開始することとしている警戒レベルについて、内閣府をはじめとする関係府省庁や報道機関等と連携し、以下の取

組を実施。

- ・ 警戒レベルについての周知啓発活動を、関係機関と連携して実施【随時】
- ・ 土砂災害警戒情報や指定河川洪水予報に相当する警戒レベルを記載して発表【5/29 から実施】
- ・ 気象庁ホームページの防災気象情報の凡例や解説に、警戒レベルに係る記述を追加【6月中までに順次実施】
- ・ 大雨警報・注意報等の XML 電文の利用者向けに、電文処理の参考となるよう、警戒レベルに対応したスタイルシートを提供【5/29 から提供開始】
- ・ その他、緊急時の記者会見や地方气象台による自治体への気象解説等で警戒レベルの解説もあわせて実施【随時】

4. 大雨特別警報の改善に係る取組

今出水期から大雨特別警報について以下の取組を実施。

- ・ 大雨特別警報の位置づけや役割について、政府広報の活用【5/18、19 実施済】や研修や講習会等、様々な機会を捉え周知の取組を強化【随時】
- ・ 大雨特別警報の発表可能性がある場合には、記者会見等で早めに言及することなどにより、危機感を効果的に発信【随時】
- ・ 大雨特別警報の発表指標の改善に向け、新指標案の作成作業を速やかに進め、都道府県ごとに関係機関と調整し、準備が整ったところから、新指標の運用を順次開始【準備でき次第順次】